

R 5 名瀬地区「市民と市長のふれあい対話」での主なご意見と市の対応

名瀬地区

2023.11月

No.	地区	項目	意見要約	市長回答	担当課	担当課補足
1	下方地区	津波の避難経路について	<p>昨年1月に津波警報が出た際、高台に向かう県道や林道は車がいっぱいでも渋滞していた。トイレに行きたくてもトイレがなく、引き返すにも車が多くて大変だった。</p> <p>かつては朝仁から山に向かい、人が歩ける程度の道があった。歩いて避難できる人はそのような道を利用できたら良いと思う。</p>	<p>市としては様々な最新の情報を発信・共有し、皆様にはその状況に応じて最適な避難方法を考えていただくことが大事です。市では今年度から防災政策アドバイザーに依頼し、市職員はじめ市民の皆様に講習を行っていただく予定です。アドバイザーからは過去の経験に基づいて備えるべきとお話があり、奄美では最高で10m程の津波が想定されるので、それよりも低い所に住んでいる方は建物の3階以上に避難することを考えていただきたいと思います。</p> <p>車を利用して避難した場合、渋滞することも想定したうえで避難していただくことが大切です。やはり日頃からの備えが大切です。</p>	総務課	<p>高台にトイレがないということを受け、持ち運びができる段ボールトイレ・凝固剤・トイレ用 TENT を希望する自治会・町内会へ配布いたしました。また、個人でも携帯トイレを非常用持出品に入れるなど、備えていただきたいと思います。</p>
2	下方地区	市職員の地域活動について	<p>市職員がどこの地域でも率先して地域活動に取組み、活躍している。ぜひ職員を激励してほしい。</p>	<p>職員の地域活動については、私も様々な行事で活躍している様子を見ておりますのでその頑張りを感じております。地域のために仕事以外のプライベートでも頑張ってもらえることは大事だと感じておりますので、評価し、奨励したいと考えております。</p>	総務課	補足なし
3	下方地区	交通手段の確保について	<p>スーパーの数が減り、買い物には最寄りのスーパーまで車で行く必要があるが、高齢になれば運転ができず交通手段がなくなる。また、タクシー不足でタクシーが拾えない状況。ライドシェアやコミュニティバスの活用を検討していただきたい。</p>	<p>繁盛店づくり支援事業を活用いただき、個人や地域でお店を出す際に使っていたきたいと思いますが、それも簡単ではないと思います。年々、移動手段の確保が難しくなっていますが、バスに関しては来年度が計画の見直し時期になりますので、しまバスと協議を行い、コミュニティバスについても改善できればと考えております。</p> <p>またライドシェアについても注目しており、実証実験などあれば奄美市も積極的に手を挙げたい考えです。既存のタクシー業界とも連携を取りながら、屋仁川の景気も良くなり奄美市全体の経済も良くなりよう取組みたいと思います。</p>	商工政策課	<p>地域住民の皆様の移動手段の確保につきまして、バス路線におきましても利用者の減少や運転手の高齢化等により、路線維持が懸念される状況にあることから、来年度、持続可能な地域公共交通体系の構築を目的として、奄美大島5市町村で一体となって新たな「地域公共交通計画」の策定に取り組むと考えています。</p> <p>その計画を策定する中で、バス事業者をはじめその他交通事業者とも連携を図り、移動手段の確保に関する議論を深めていきたいと思っております。</p> <p>またライドシェアについても、国における議論の動向を注視しながら、関係団体等からの意見を踏まえ、本市におけるライドシェアの導入について研究していききたいと思います。</p>
4	下方地区	オーバーツーリズム対策について	<p>コロナ渦が明け、観光客が増加していくと思うが、大和村や大浜へヒッチハイクする観光客もあると思う。観光による弊害が起らないように、留意してほしい。</p>	<p>自然環境に負荷がかかりすぎないように、金作原や三太郎岬に立ち入り規制をして入場制限をしています。</p> <p>それ以外にも、ゴミの投棄の問題などが起こってくると予想されますが、地域の自治会・町内会・住民の皆様と連携しながら取り組みたいと思います。</p> <p>何かお気づきのところがあれば、状況をお知らせいただきたいと思っております。</p>	世界自然遺産課	<p>金作原や三太郎線周辺による自主ルールの運用によってオーバーツーリズム対策を講じており、自主ルールの周知についても啓発宣材等を活用しながら実施しているところです。</p>

No.	地区	項目	意見要約	市長回答	担当課	担当課補足
5	下方地区	台風による食品の不足について	台風のため船が入らない時には、生鮮食品が不足してしまう。農業センター等を活用して、野菜を作ったら良いのではないかな。	農業は奄美群島全体の基幹産業ですので、奄美市の農業はまだまだ伸びると考えております。知名瀬・根瀬部地区や古見方地区、有良・芦花部、笠利などは農業が盛んな地域ですが、担い手不足が起きているのも確かです。農地の流動化も進めています。農業をやめる方・手放す方の増加に対し、新しく始める方や農地を広げたい方の増加が追いついていない状況です。市の農林水産部にも様々な挑戦を促していきたいと思えます。 具体的なご要望がありましたらお寄せください。	農林水産課	台風時の生鮮食品については、島内品が台風被害を受けるとともに、島外からの物流が止まり不足が生じる状況がございます。 （公財）奄美市農業研究センターでは、担い手農家の確保・育成を目的に農業研修を行っています。限られた人員・施設の中で、主に島外に出荷して稼ぐ品目（パッションフルーツ、カボチャ、実エンドウ）の栽培を行っており、台風時の食品不足をまかなえる施設ではない事をご理解いただきたいと思えます。 台風時の生鮮食品不足につきましては、地場産品の生産拡大とともに、必要最低限の安定供給に資するストック機能の強化をはじめ、冷凍・冷蔵機能を有するコンテナ設置や、航空便を活用した物資の輸送等、他自治体の先行事例調査や、航空会社や民間事業者、関係団体等からの意見等も伺い、本市としてどのような取り組みが行えるのか、また、国や県・周辺自治体と協働で取り組むことができるのか調査研究して参りたいと思えます。
6	下方地区	農業教育について	国内の食料自給率が年々下がっている。フランスが観光立国と併せて農業立国も行っているように、奄美でも観光とともに農業を促進する取り組みを行ってはどうかな。 昔は小・中学校で農業の実習があった。子供の頃から農業に触れていないと、大人になって何も育てられないのではないかなと思う。	先進国の中でも食料自給率が低いのは日本だけですが、次世代に引き継いでいくべきものは、将来的には義務教育に取り入れなければいけないだろうと考えております。農業も、生きていく上で必要な営みとして、小学校からの授業の中に入れていかなければならない時代になると思えます。	学校教育課 農林水産課	【学校教育課】小学校3・5年生の社会、中学校の社会科地理で日本の農業について学ぶ単元があります。また、本市の学校では、敷地内の畑や田園でサトウキビや黒米を栽培している学校もあります。農業教育はこれからの社会にとって大切な視点だと考えますので、今後も推進を図って参ります。 【農林水産課】子供の頃から農業に触れるという視点は農業の振興を考える上で非常に重要であります。また食料自給率向上の観点からも肝要と考えられます。 現状、各学校や保育園からの校内農園の耕耘の依頼等があった際などに「（公財）奄美市農業研究センター」において植え付けの指導などを補足的に行っているケースもございますが、今後は本市の学校教育現場と連携可能な方策を検討して参るほか、指導等依頼があれば積極的に対応して参ります。